

令和5年度第1回東松島市総合教育会議

日 時 令和5年8月21日（月）

午後3時から

場 所 東松島市役所 301会議室

次 第

1 開会

2 あいさつ 東松島市長 渥 美 巖

3 議題

（1）報告事項

①本市における小中学校が連携した教育の現状について

②教育課程特例校制度（小学校低学年からの英語活動）の市内全校実施について

③「縄文シティサミット in ひがしまつしま」開催について

（2）協議事項

①全国学力・学習状況調査の結果と本市の学力向上の取組について

②デジタルメディアとの関わりの現状と本市の取組について

（3）その他

①市議会だより掲載記事に関する申入れについて

4 閉会あいさつ 東松島市教育委員会教育長 志小田 美弘

5 閉会

出席者名簿

No.	役 職 名	氏 名
1	市 長	渥 美 巖
2	教 育 長	志小田 美 弘
3	教 育 委 員 (教育長職務代理者)	木 村 和 彦
4	教 育 委 員	福 田 ゆかり
5	教 育 委 員	鹿 野 あい子
6	教 育 委 員	松 岡 勝 久

【教育委員会部局】

No.	役 職 名	氏 名
1	教育部長	小 山 哲 哉
2	学校教育管理監	村 岡 太
3	教育総務課長	樋 熊 利 将
4	生涯学習課長	五ノ井 勝 浩
5	教育総務課指導主事	小 山 晴 美
6	教育総務課指導主事	前 田 尊 央
7	教育総務課長補佐	千 葉 純 一
8	教育総務課学校教育指導員	青 山 博 之
9	教育総務課教育総務係長	沼 崎 裕 行

【市長部局】

No.	役 職 名	氏 名
1	副市長	小 山 修
2	総務部長	高 橋 義 則
3	総務課長	勝 又 啓 普
4	総務課長補佐	高 野 裕 行
5	総務課市長公室長	柴 田 やす子
6	総務課市長公室長補佐兼秘書広報係長	浅 野 沙都美

本市における小中学校が連携した教育の現状について

1 目的

本市では「ふるさと東松島市を愛し、新たな時代を志高く、心豊かな人づくり」の教育基本方針のもと、全ての児童生徒に「出番・役割・承認」を与える「魅力ある学校づくり」に取り組んでいる。

その「魅力ある学校づくり」を推進する取組として、「故郷に誇りと愛情を持ち、志高く、協働して未来を切り拓く人」という本市が目指す15歳の姿を全ての小中学校が共有し、義務教育9年間を見通した指導を充実させるために、市内3中学校区内で小中連携教育に取り組んでいる。小中連携教育の目的は、小学校と中学校の校種間の連携を密接にすることで増加傾向にある不登校児童生徒の減少と、小中学校で一体感のある教育を推進することで学力の向上を図ることを大きな目標としている。

2 実践校

矢本第一学区（矢本第一中学校、矢本東小学校、大塩小学校、矢本西小学校）

矢本第二学区（矢本第二中学校、大曲小学校、赤井小学校、赤井南小学校）

鳴瀬未来学区（鳴瀬未来中学校、鳴瀬桜華小学校、宮野森小学校）

令和5年度も鳴瀬未来学区が推進モデル地区に指定

3 小中連携教育の方法

小中連携に加え、幼保小連携・小小連携を含めた校種間連携を推進する。

（児童生徒・教職員・教育課程・地域の4つの面での連携・交流を主体に、先進的な取組を推進する）

4 今年度の主な取り組み

① 児童生徒の主な連携・交流

- ・ ノーメディア週間 : 中学校の定期考査等の1週間前から行われる部活動停止期間および試験期間中に合わせて、デジタルメディアの使用を控える期間を設定。学区内の小学校も同様の取り組みを行う。
- ・ 壮行式を小6児童が見学 : 中総体前に行う壮行式を6年生が見学。新人大会や合唱コンクールのリハーサルも見学。
- ・ 合同あいさつ運動 : 生徒会が中心となり母校の小学校を訪問し、小学生とともに朝のあいさつ運動を行う。
- ・ 子ども未来サミット : 市内11校の児童会生徒会の代表が集まり、「東松島ゴール」の達成のための各自の取組を自己評価するチェックカードの作成のためのチェックリストを話し合う。
- ・ 小小の交流活動 : 5年生の宿泊学習を二中学区の赤井小、大曲小、赤井南小が合同で松島自然の家で実施。

- ・和太鼓指導 : 鳴瀬未来中生徒（宮野森小卒業生徒）が母校である宮野森小を訪れ、1～4年生児童に「宮野森小太鼓」の伝承を行っている。
 - ・校内放送の小学校配信 : 矢本二中の生徒会が昼の放送をGoogleMEETを使って、でめこんにかかわる情報や呼びかけを配信している。
- ② 教職員の連携・交流（教育課程の連携・交流を含む）
- ・児童生徒情報交換会 : 前年度小6の担任や養護教諭が中学校1年生の授業を参観し、その後、進学した生徒の情報交換会を実施。
 - ・「協同的な学び」研修会 : 矢本東小で行われた研修会（授業参観と講演）に参加。
山形大学教授の森田先生に指導を仰ぎ、市全体ならびに中学校区毎に研修会を実施している。
 - ・小中学校長情報交換会 : 月に1度、翌月の中学校区の行事等について協議確認を行う。
 - ・指導主事訪問時の相互参観 : 異校種の授業を参観することによる授業研修。
 - ・小中連携授業参観情報交換 : 全学年（小1～中3）の授業参観ならびに情報交換を実施。
- ③ 地域との連携・交流
- ・学校運営協議会連絡会の実施 : 全小中学校で行っているコミュニティスクールの学校運営協議会を、中学校区毎に連絡会と称し小中合同で開催。
 - ・合同引渡し訓練 : 中学校区で同一日に引渡し訓練を実施。

5 今後の取組・課題

中学校の教員が教科の専門性を生かし、学区内の小学校に出向き児童に授業を行ったり、小中教員のチームティーチングによる中学校での教科指導など、教育課程での連携や交流について、研究実践を重ねたい。

また、コミュニティスクールが全ての学校で取り入れられていることから、学校運営協議会を中心に、小中連携教育が学校での実践にとどまらず、全市的な取組になるよう働きかけていきたい。



伝統の小中合同あいさつ運動



東小の運動会で一中生がファンファーレ

教育課程特例校制度(小学校低学年からの英語活動)の市内全校実施について

1 目的

- (1) 小学校第1学年及び第2学年において「英語活動」を新設し、グローバル化が進む現代社会において、他の国の人々とのコミュニケーションが必要不可欠となることから、英語を中心とした外国語に触れる機会を保障し、9年間を見通した外国語に関する連続した学びを具現化する。
- (2) 英語活動を通し、他と積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。

2 令和5年度実践校・市内全小学校(8校)

3 英語活動指導者

矢本西小学校外国語専科教員 佐賀 真由美 教諭
 赤井南小学校外国語専科教員 木村 明子 教諭
 宮野森小学校外国語専科教員 西條 知恵 教諭
 東松島市教科教育指導員(英語) 原田 祐子 指導員
 ※ALTや各学級担任も補助を行う



4 年間授業時数

小学1年生・・・30時間 小学2年生・・・30時間
 ※各教科、領域の予備時数を充当する

5 活動の内容

※英語の発音や表現に慣れ親しむ活動を中心に、2年間繰り返して行うことにより内容の定着を図る。

1学年			2学年		
ユニット	題材	学習内容	ユニット	題材	学習内容
1	Hello! How are you? あいさつ(2)	①あいさつをする。 ②ごきげんいかが?	1	Hello! How are you? あいさつ(2)	①あいさつをする。 ②ごきげんいかが?
2	What's your name? 自己紹介・名前は? (3)	①自分の名前を伝える。 ②友達に名前を尋ねる。 ③自己紹介をする。	2	What's your name? 自己紹介・名前は? (3)	①自分の名前を伝える。 ②友達に名前を尋ねる。 ③自己紹介をする。
3	What color is it? 色であそぼう(3)	①色の名前を知る。 ②色の言い方に親しむ。 ③色で遊ぶ。	3	What number is it? 数に親しもう(4)	①1～10の数字の言い方を知る。 ②1～10の数字を使う。 ③ジャンケンの言い方を知る。 ④好きな数について話す。
4	What number is it? 数に親しもう(4)	①1～10の数字の言い方を知る。 ②1～10の数字を使う。 ③ジャンケンの言い方を知る。 ④好きな数について話す。	4	What color is it? 色であそぼう(3)	①色の名前を知る。 ②色の言い方に親しむ。 ③色で遊ぶ。
5	How's the weather? 今日の天気は?(2)	①天気の言い方を知る。 ②季節や気温の言い方を知る。	5	How's the weather? 今日の天気は?(2)	①天気の言い方を知る。 ②季節や気温の言い方を知る。

6 英語活動に係るその他の取組

(1) イングリッシュキャンプ

A L Tと共にチャンツや体験活動を行うことを通して英語に慣れ親しむとともに、英語を使って外国の人とコミュニケーションすることに楽しみや喜びを感じることができるようにするという目的で、令和3年度より実施。令和5年度は、小学校下学年（1～3年生）対象と上学年（4～6年生）対象の2回を予定。



(2) 英検チャレンジ

昨年度より市内小学生を対象に英語検定受験に係る支援および補助を実施。受験費用を補助するとともに、5級合格に向け4回の学習会を実施した。市内65人の小学生が受験し、53人が合格、合格率は81.5%であった。小学2年生で合格した児童も3人いた。令和5年度は受験対象を4級へも広げて実施していく予定。

学年	申込数	受験者数	合格者数	合格率%
1年生	2	2	0	0
2年生	6	5	3	6.0
3年生	6	4	4	100.0
4年生	14	11	9	81.8
5年生	14	13	9	69.2
6年生	31	30	28	93.3
計	73	65	53	81.5

「縄文シティサミット in ひがしまつしま」スケジュール (案)

◆ 10月15日 (日)

場所：東松島コミュニティセンター他

時 間	内 容
13:00	受付
13:30 ~ 14:00	縄文都市連絡協議会総会 (東松島市コミュニティセンター会議室)
14:00 ~ 14:15	サミット打合せ (会議室) パネラー (参加都市首長等)・コーディネーター (水ノ江和同氏)
14:30 ~ 14:40	縄文シティサミット開会 (多目的ホール) 開催地、協議会会長挨拶
14:40 ~ 16:00	サミット「縄文に学ぶSDGs」(80分) パネラー 参加都市首長等 14名(各5分×14都市=70分) コーディネーター 水ノ江和同氏 (同志社大学教授) (10分)
16:00 ~ 16:10	休憩
16:10 ~ 17:00	記念講演「縄文に学ぶまちづくりと持続可能な社会」(50分) 講師 水ノ江和同氏 (同志社大学教授)
17:00 ~ 17:15	共同宣言 サミット開催都市代表 東松島市長 次回開催地挨拶 洞爺湖町長 サミット閉会

◆ 10月16日 (月)

場所：震災復興伝承館、奥松島縄文村ほか

時 間	内 容
8:30 ~ 9:00	航空自衛隊松島基地 東松島市長挨拶
9:15 ~ 10:00	東松島市震災復興伝承館
10:15 ~ 12:30	さとはま縄文の里史跡公園 奥松島縄文村歴史資料館

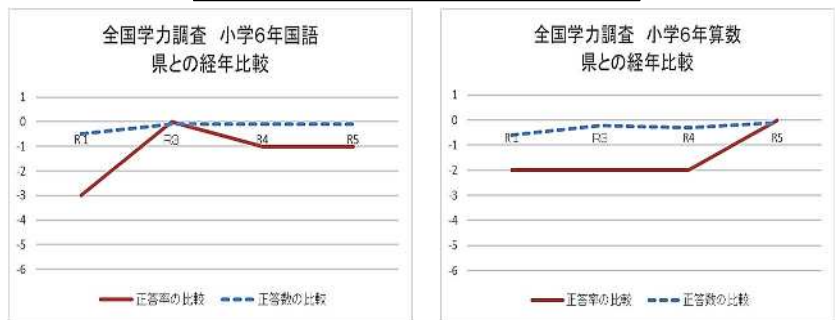
全国学力・学習状況調査の結果と本市の学力向上の取組について

1 令和5年度 全国学力調査及び標準学力調査の結果より

(1) 小学校6年

全国学力調査における正答率の県との比較では、国語はマイナス1ポイント、正答数でいえばマイナス0.1問となっており、ほぼ同程度である。算数では、県と同様の数値となり、その差はなくなった。また、本市が4月・12月に実施する標準学力テストの結果は、同一個人を経年で追跡し、同じ児童の学力の変容が明確に分かるものであるが、今年度の本市

全国学力調査（4月実施）結果



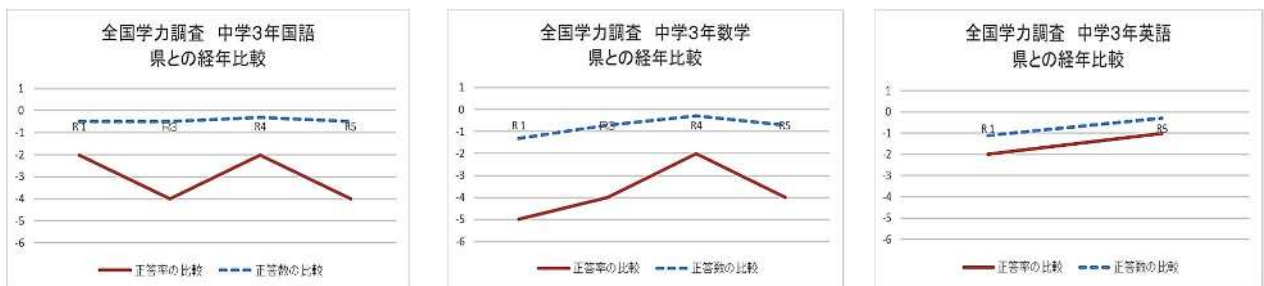
		国 語			
		R 1	R3	R4	R5
正答率の比較		-3	0	-1	-1
正答数の比較		-0.5	-0.1	-0.1	-0.1

		算 数			
		R 1	R3	R4	R5
正答率の比較		-2	-2	-2	0
正答数の比較		-0.6	-0.2	-0.3	0

の6年生は国語算数共に、4年生で一度下降した成績が、5年生の4月以降急激に上昇している。これは、日々の授業に「協同的な学び」を取り入れ、学び合う学習に地道に取り組んできたことが、徐々に成果となって表れてきていると考える。

(2) 中学校3年

全国学力調査（4月実施）結果



		国 語			
		R 1	R3	R4	R5
正答率の比較		-2	-4	-2	-4
正答数の比較		-0.5	-0.5	-0.3	-0.5

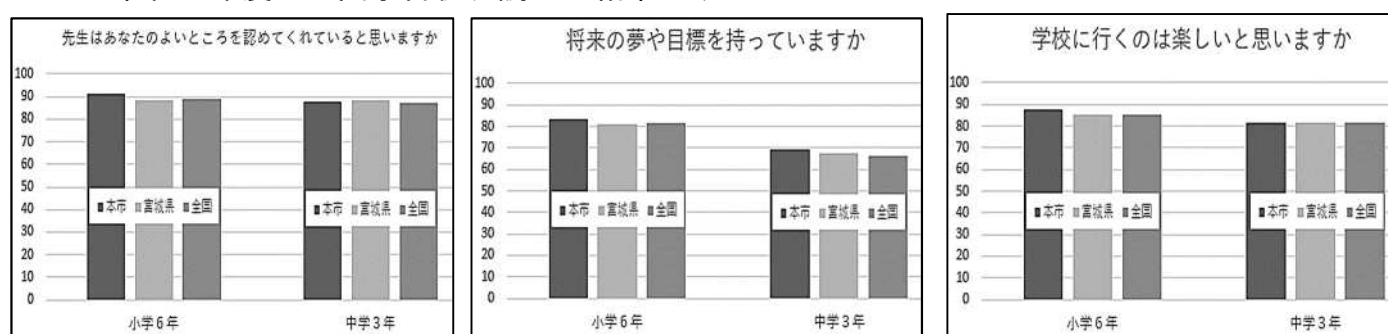
		数 学			
		R 1	R3	R4	R5
正答率の比較		-5	-4	-2	-4
正答数の比較		-1.3	-0.7	-0.3	-0.7

		英 語	
		R 1	R5
正答率の比較		-2	-1
正答数の比較		-1.1	-0.3

中学校においては、国語・数学共に正答率ではマイナス4ポイントとなっているが、これを正答数で見ると、それぞれマイナス0.5問・0.7問であることから、短答式・記述式の各問いでの無回答率を改善していくことで、今後の伸びが期待できる。英語については、正答率で1ポイント、正答数では0.8ポイント、それぞれ県との差が縮まっている。

全国学力調査は中学3年の4月に行われることから、中学1・2年時の取組が大きく結果に反映される。したがって、この時期に生徒一人一人に輪郭のはっきりした進路目標や夢を持たせ、「でめこん（デジタルメディア・コントロール）」を含めた、進路目標実現に向けて努力できる環境づくりと、「協同的な学び」を含む生徒の学力を保障する授業づくりに努めていくことが肝要であると考えます。

2 令和5年度 全国学習状況調査の結果より



上記3つの質問は、肯定的な回答をした児童生徒の割合を表している。本市の児童生徒は、宮城県及び全国の児童生徒と同等かそれ以上に肯定的に回答していることが分かる。この結果は、本市で掲げている「目指す15歳の姿」の下、心あったかイートころ運動等の小中連携教育を実践したり、ひがまつインターンシップ・地域貢献活動等の地域と協働した教育活動を推進したりしていく中で、各校が機を捉え、児童生徒に「出番」を用意し、活躍できる「役割」を意図的に付与し、その頑張りを適切に「承認」してきたことが、高評価につながっているのではないかと考える。

3 令和5年度 東松島市における児童生徒の学力向上に向けた取組の具体

(1) 「学力保障のR-PDCAサイクル」(5か月プラン・7か月プラン)

学力向上に向け「学力保障のR-PDCAサイクル」として1年を2期(12月～4月、5月～11月)に分け、標準学力調査(4月・12月実施)の結果から、児童生徒一人一人の学力の分析と支援策を検討し、「個別支援シート」を活用した個別支援や補充の時間を設定し、学力向上を図る。

(2) 授業力向上研修の充実(「協同的な学びの充実研修会」「授業づくり研修会」)

① 「協同的な学びの充実研修会」

- ・児童生徒が相手の意見を「聴き合い」、自分の考えを深めたり、協同による課題解決に取り組んだりする「学び合い」のある授業づくりの推進に向けて、令和3年1月から山形大学 森田智幸准教授に指導を受け、授業改善を図る。

- ・「協同的な学び」推進地区として矢本一中学区4校を、モデル地区として推進する。

- ・市主催「協同的な学びの充実」研修会 市内小中学校教員60名参加

第1回 日時：令和5年6月30日（金）午後1時30分～

研究授業：矢本西小学校 大橋康弘教諭 4年国語

研修：市内全小・中学校研究主任による事後協議会

第2回 日時：令和6年1月19日（金）午後1時30分～

研究授業：矢本第一中学校

※矢本二中学区・鳴瀬未来中学区・各小中学校において、山形大学大学院教育実践研究科教授森田智幸氏を招き、研究授業を行い、指導助言をいただいている。

②全国学力・学習状況調査問題に係る「授業づくり研修会」

・文部科学省より教育課程調査官・学力調査官を招聘し、算数、国語の全国学力・学習状況調査問題の活用と学習指導の改善・充実に向けた研修会を実施する。

算数 日時：令和5年7月11日（火）午後3時～

講師：文部科学省国立教育政策研究所

教育課程調査官・学力調査官 直海 知子 氏

国語 日時：令和5年8月30日（木）午後3時～

講師：文部科学省国立教育政策研究所

教育課程調査官・学力調査官 渡辺 誠 氏

(3) 宮城県学力向上マネジメント事業

宮城県学力向上マネジメントアドバイザーによる学校訪問（市内全小・中学校を年5回ずつ、計55回）での指導助言を基にした、学力向上に向けた授業づくり事業の実施。

(4) 小中連携による授業づくり研修会について

各学校の授業研修会に、中学校区の教員が相互参観し、授業参観及び事後検討会に参加し、学校の枠を外して研究討議を積み重ね、児童生徒の9年間の学びの充実に向けた取組の推進。

デジタルメディアとの関わり の現状と本市の取組について

1 東松島市児童生徒（小6・中3）の生活の現状について

（令和5年度全国学力学習状況調査の生活に関するアンケートより）

① デジタルメディアの使用時間

平日にスマホやパソコン、タブレット等を使用する時間（ゲームやSNSの使用）が3～4時間あるいは4時間以上と回答した本市6年生児童は全体の36.5%で約3人に1人の割合である。県全体との比較では5ポイントほど上回る。また、中学生も県平均と比べ長時間使用する生徒の割合が6ポイント多くなっている。

（令和5年度の調査では、デジタルメディアの使用時間の項目が無くなったことから、令和4年度のデータ）

② 家庭学習の時間

平日に全く家庭学習をしないと回答した本市6年生児童は全体の1.3%であり、県平均(4.6%)よりは少ない。また、令和4年度と比較しても若干ではあるが減少傾向にある。また、1～2時間の家庭学習時間も昨年度の市平均、今年度の県平均を上回った。中学生は、逆に全く勉強しない、30分未満の勉強時間が昨年度よりも増加傾向にある。2時間以上勉強すると答えた児童生徒は今年度の県平均、昨年度の市平均を下回る結果となっている。

昨年度の夏休み以降、本格的に取り組んでいる「でめこん」の効果がわずかでも表れてきている結果と考える。しかし、自宅での学習習慣が身につくにつとえ、まだ十分とは言えないことから、さらなる日常化が望まれる。

③ 読書時間の確保

市全体として、活字に触れる時間(教科書や参考書等を除く)が少ない傾向にあったが、昨年度の市平均よりも自宅で読書する児童生徒が増加している。小・中学生ともに「全く読書しない」と回答した児童生徒が減少し、30分から2時間程度の読書時間と回答した児童生徒が増加している。

これは「でめこん」により生まれた余暇時間を読書にあてている児童生徒が増えているものと考えられる。

2 小中連携事業の取り組みから

コロナが二類から五類に移行になったことから、3中学校区でそれぞれ小中連携事業が本格的に行われている。定期的な校長連絡会議の実施をはじめとして、朝のあいさつ運動や中総体や新人大会の壮行式の6年生見学は3中学校区で実施、中学校の合唱コンクールのリハーサルを矢本二中学区の6年生が見学するなど多種多様な事業を実施している。

中学校区で上記のような様々な取組がある中で、中学校の定期考査期間中に試験勉強のためにデジタルメディアに極力触れない3中学校区共通の取組がある。試験期間中のこの中学校の取り組みに合わせ、学区内の小学校もデジタルメディアの使用をコントロールすることで、家庭学習や読書、家族との団らんなど、生活を整える運動を行っている。

3 「でめこん」東松島市ゴールについて

「子ども宣言2021」を受けた、本市の児童生徒の生活を整えるための行動目標「東松島ゴール」を昨年度市内11小中学校の代表児童生徒の参加による会議を開催し制定した。

これを受け各小中学校では児童会や生徒会を中心に様々な取組を展開し、「でめこん」そのものは各自の実践ではあるものの、学校全体はもとより家庭を巻き込んでの実践となっている。

また、スマホやゲーム機、パソコン等のデジタルメディアの使用を試験勉強期間中は控えようとする運動「ノーメディア週間」として、各校の児童会生徒会を中心に全市的に年間を通して取り組んでいる。

でめこんの取組は様々で、小学校ではがんばりカードなどを作成し1週間単位で自己評価し、保護者の点検を得てカードを担当に提出させる学校が多い。中学校では生徒会を中心にアンケートを実施したり、小学校と同様に自己評価カードを作成している学校があり、でめこんに対する意識は高い。

令和5年度の子ども未来サミットでは、中学校区での統一したでめこんチェックカードを各校の代表児童生徒が考え、夏休み明けから毎月月末にそれぞれ自己評価することとしている。

夏休み中の各家庭での生活を整える自覚を促すために、7月18日(火)、19日(水)の両日の午前午後の計4回、東北大学加齢医学研究所の榊浩平助教をお招きし、3中学校および小6児童全員を対象に教育講演会を実施した。「スマホはどこまで脳を壊すか」という演題で、小学生から中学生にかけて急激に成長する脳のメカニズムとスマートフォンの適切な使用について、豊富なデータに基づいたわかりやすい講話で、拝聴した児童生徒の感想もこれまでの自分の生活を振り返りながら、デジタルメディアの使用について「東松島ゴール」を意識したいとの声が多かった。

4 東松島市子ども未来サミットについて

令和5年度第4回東松島市子ども未来サミットを7月29日(土)東松島市コミュニティセンターで開催した。

第2回サミットから本市の教育的な課題である、児童生徒のデジタルメディアの長時間使用やそれにともなう学力低下の解決のため、「デジタルメディア・コントロール」をテーマに、各学校の代表児童生徒による熱心な話し合いが行われてきた。その結果、令和3年度は『東松島市「子ども宣言2021」』を、令和4年度は同年5月に策定した『デジタルメディア・コントロール チャレンジ「東松島ゴール」(略称でめこん)』の各校での取組について、発表することができた。

今年度のサミットでは、各校が児童会生徒会を中心に取り組んでいる「でめこん」の取組に対して、自己評価できるようなチェックリストを各中学校区の代表児童生徒が考え、そのチェックリストに基づき毎月月末に自己評価することとした。自己評価の結果は集計され、各校でその評価を参考に取組の強化を図ってもらうようにした。

各校は児童会生徒会を中心に様々な取組を展開し、「でめこん」の周知徹底を図っているものの、「でめこん」そのものは家庭生活での取組が中心となることから、自

身の生活を振り返り課題となる面を洗い出し、児童生徒個人の取組に加え各家庭の協力を得たいと考える。

今後は、この「でめこん」を様々な場面で広報し、家庭や地域が一体となった市民運動的な取組に発展させることが課題である。



東松島市「子ども宣言2021」

わたしたちは、このまちの子どもとして、豊かな自然や人の温かさにふれ、デジタルメディアとの関わり方を考え、健康的な生活を送るために宣言します。

〈デジタルメディア・コントロール3本柱〉

時間・健康・情報

- ひ…人との交流をふかめて、デジタルメディア・コントロールしよう
(時間) が…学習やすきなこと、家族とのだんらんの時間を大切にしよう
(健康) ま…マナーを守り、個人情報管理しよう
(情報) つ…使い方を考え、食事や睡眠をしっかりとうろう

(令和3年7月31日制定)

「東松島ゴール」

①平日の使用時間

小学生全学年：1時間
中学生全学年：1時間程度

②平日のメディア使用終了時刻

小学生1～3年生：午後8時
小学生4～6年生：午後8時30分
中学生全学年：午後9時

③平日の就寝時刻

小学生1～3年生：午後9時
小学生4～6年生：午後9時30分
中学生全学年：午後10時

(令和4年5月17日制定)



東松総務第431号
令和5年8月1日

東松島市議会議長 小野 恵 章 様

東松島市長 渥 美 巖

市議会だより掲載記事に関する申し入れ

市議会におかれましては、東松島市議会基本条例において、市民に開かれた議会活動を行い市民の福祉向上及び市政の進展に寄与することを目標に掲げ、日頃から市民の負託に応えるべくご尽力されておりますことに敬意と感謝申し上げます。

このような中で、令和5年8月1日発行の東松島市議会だより第69号に掲載された令和5年第2回東松島市議会定例会一般質問の報告記事のうち、熊谷昌崇議員の記事について、執行部答弁の記載内容が部分的であり答弁の内容を正確に市民にお知らせする記事としては不十分であると認識いたしました。

つきましては、今後市議会だよりに掲載する記事について、質問及び答弁の内容全体が正確に伝わるような記事の取りまとめとなるよう、以下の事項について特段の配慮を頂きたく申入れいたします。

記

- 1 市議会だよりに掲載する一般質問に関する記事について、掲載ページに「※質問した議員は責任を持って原稿(写真を含む)を作成しています。」との標記がありますが、原稿作成者は東松島市議会広報常任委員会運営規程第2条を踏まえて市民が議論及び討論全体を把握できる記事掲載に努めること。
- 2 広報常任委員会は、一般質問を含む議論等に関する報告記事原稿中の質問及び答弁について、その主旨全体が正確に伝わるような要約や表現となっているかを確認し、市民への説明責任を果たすこと。

問 中学校入学祝の運動着について

答 教育委員会と協議し決定



1 件目

問 昨秋頃、目安箱になせ中学校で使用する正規の体操着を配布しないのかという旨の投書があり、議会としては正規の学校指定の運動着を配布しているものと思料していた。これでは保護者の経済的負担軽減につながらない。なぜこのような対応なのか

答 スポーツ健康都市を宣言しているので、教育委員会と協議し、市からの記念品と分かるように3校統一した夏用運動着とした。発注は本市内で受注に対応できる工場を有し、学校指定運動着と同等以上の品質で安価のものにした。

- 1 中学校入学祝の運動着について
- 2 eL-QR（エルキューアール）を利用した納付方法の拡充について

見解の相違

問 1社随意契約だが、何社から相見積もりを取ったのか。また、何をもつて同等以上の品質なのか。具体的に示してもらいたい。

答 相見積もりはとっていない。1社から見積もりを取った時に、同等以上の品質の物と提示している。

問 それでは、具体的に同等以上の品質の物と証明できないのでは。

答 業者を信頼している。

問 保護者からは、子どもが着ないから、母親のパジャマになっていると言った様な意見が聞こえてくるが教育委員会は把握しているか。

答 その様な意見は聞いた事がない。授業等で差異なく着用している。

問 先週の中総体壮行会等でも誰も着用していないのは。

答 この時期だからだと思われる。

▲かみ合わない議論

11 令和5年8月1日発行

12 2023年8月1日発行